※

笹部新太郎（1887～1978）
ササベシンタロウ

大阪の堂島に生まれた笹部氏は、東京帝国大学法学科（現東京大学法学部）在学中から桜の研究を始め、日本の古来の桜であるヤマザクラ、サトザクラの保護育成に生涯を捧げた。

大阪造幣局の通り抜けの桜、西宮市夙川・甲山周辺の桜の管理指導など多くの桜に関する事業を手掛けたが、中でも1960年(昭和35年)に行われた岐阜県御母衣ダムの建設で水没する荘川桜(エドヒガン、樹齢 400 年)の移植は、世界の植林史上においても稀有の業績である。

水上勉氏の小説『櫻守』に登場する「竹部庸太郎」は、笹部氏をモデルにしている。また笹部氏は、桜に関する書画や美術工芸品、書物などを多数収集しており、それらの資料は西宮市に寄贈され、現在 公益財団法人 白鹿記念酒造博物館 付設笹部さくら資料室に所蔵されている。

笹部桜（ササベザクラ）

神戸市東灘区にあった笹部氏の庭（現岡本南公園）に生えていた実生桜。最近の DNA 検査による研究でヤマザクラと染井吉野の交雑種との説もある。

※写真提供　西宮市笹部桜コレクション：白鹿記念酒造博物館寄託

「桜の園」の 桜と紅葉

桜の園にある桜ほぼ全てが日本の山野に自生していた野生種である。桜の園の桜の代表はヤマザクラで、開花は平野部のソメイヨシノより 1 週間位後が目安とされている。他にもエドヒガン、オオシマザクラ、カスミザクラ、ウワミズザクラなど多くの種類があり、3 月末頃から咲き始め、以後約 4 週間にわたり種類ごとに順次咲いては散ってゆく。武田尾駅から桜の園までの道にも多くの種類の桜を見ることができる。

桜の園には多くのモミジがある。11 月初旬に日当たりの良い所から始まった紅葉は、月半ばより 1 週間位の間にピークに達し、月末に紅葉シーズンを終える。咲いてもすぐ散ってしまう春の桜と違い、紅葉は見ごろの期間が長いので錦秋の装いに巡り会える機会は多い。

協力　宝塚市　公園河川課　TEL：0797-77-2021
公益財団法人　白鹿記念酒造博物館　TEL：0798-33-0008

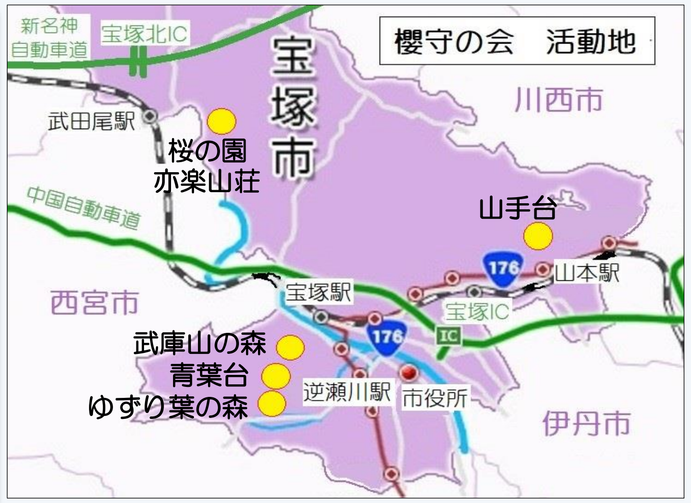
* * *

森林ボランティア 櫻守の会

桜博士と称された笹部新太郎氏の没後、武田尾の「亦楽山荘」は長く放置されて荒れ放題でしたが、1999 年宝塚市の里山公園「桜の園」として再出発し、この時に行われた山桜植樹会の参加者が中心になって「櫻守の会」が発足しました。以後「櫻守の会」主体で整備を行っています。身近な里山を守る活動を一緒に始めてみませんか。初心者・女性の方も大歓迎。

主な活動

1．里山整備活動
   活動地：宝塚市内 5 ヶ所　活動回数：8 回/月
   園内訪問者の安全対策、広場・園路の整備
   生物多様性を目的とした 明るい森づくり
   サクラなどの幼木の育成と植樹
2．環境体験学習支援、トライやるウィーク活動支援
3．緑のＰＲ活動：環境パネル展、公開講座
4．研修会：自然観察会、新人研修会、刈払機講習会
5．親睦会：芋煮会 など



枯木伐採

園路階段設置

櫻守の会

会員を募集しています

櫻守の会　検 索

2023.11　4000

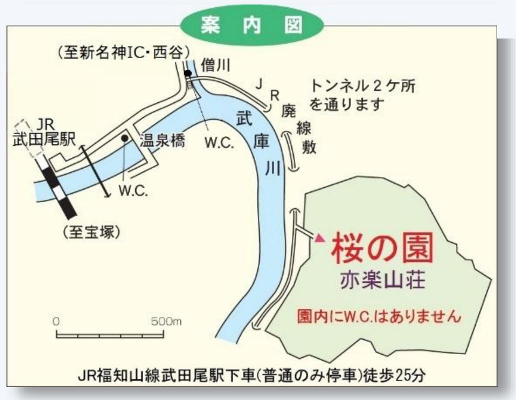
武田尾 桜の園 亦楽山荘
えきらくさんそう

コバノミツバツツジ

ツメレンゲ

春の桜

ヤマボウシ



JR福知山線武田尾駅下車(普通のみ停車)徒歩25分

秋の紅葉

桜の園・亦楽山荘 (えきらくさんそう)

所 在 ： 宝塚市切畑字長尾山 地内
面 積 ： 約 40ha

笹部新太郎氏がサクラの品種改良や接ぎ木などの研究のために 1912 年（明治 45 年）に拓いた演習林で、当時は全国から集められたヤマザクラやサトザクラが 30 種類、5,000 本以上も植えられていた。笹部氏は、この演習林に中国の詩人・蘇東坡の漢詩の一節から「亦楽山荘（えきらくさんそう）」と名付けた。その後亦楽山荘は笹部氏のご遺族からの寄贈と宝塚市の購入により、1999 年より宝塚市の里山公園「桜の園」となった。

Takarazuka City 宝塚市

森林ボランティア
櫻守の会